

アートを通じた商店街の賑わいの創出 (商店街地域の空き家・空き店舗等の調査・研究。有効的な利活用。)

指導教員 金沢美術工芸大学 美術工芸学部 教授 真鍋淳朗 准教授 高橋治希
准教授 岩崎純 准教授 芝山昌也 准教授 稲垣健志

参加学生 青山風揮・伊木さなえ・伊藤唯・江川真里奈・桶谷いづみ・喜多美友・笹谷美月
佐藤彩乃・武平奈々・中村清夏・藤本遥香・村岡ゆきの・矢野宏美・山根萌花
山本匠

1. 活動の成果要約

2020年の芸術祭にむけて新たな視点でフィールドワークを行うべく、テーマ設定の見直しを行った。また、地域連携団体から情報提供があった一軒の空き家が地域住民との交流拠点として使用できるように整理を開始し、そこを拠点に地域住民との交流会を行なうなど、空き家の有効的な活用や現地での動き方を考え検証した。

2. 活動の目的

珠洲市飯田町を中心に交流を行い、奥能登と珠洲市の風土や歴史を調査・考察しながら、アート・デザインの視点による地域の魅力の発掘・発信をめざす。

この研究計画は、大学と珠洲市との連携事業の一環として毎年継続的に実施され、大学の教育・研究・地域貢献としての活動を行う。3年に1度開催される奥能登国際芸術祭には招聘作家の立場で参加することを目指し、アートを通じた珠洲市及び飯田町商店街地域の賑わいを創出する。

3. 活動の内容

○大学内で週に2回の話し合いと、月に1回の珠洲での活動を行なっている。

○2017年の調査・作品制作を踏まえ、2020年奥能登国際芸術祭への参加を目指した新たな調査テーマ設定を行った。2017年は「奥能登曼荼羅」という作品の中で奥能登の自然や歴史、祭りを中心とした文化に着目したが、今年度は「珠洲の日常」に着目し話し合いを進めた。その中で知りたい日常とは何か、どのような切り口があるかを考え、聞き取り調査を行う上で住民がそれぞれの生業について話しやすい「仕事」にテーマを絞った。ここから、珠洲の人々の生活の中で仕事がどのような位置づけにあるのかということに興味をもち「珠洲のワーク・ライフ・バランス」を中心テーマに聞き取り調査を行った。

○地域連携団体から一軒の空き家の情報提供があり、今後の研究活動を行う上で欠かせない地域交流や滞在制作の拠点としてどのように有効的に活用ができるか検証している。

○奥能登国際芸術祭 2017 で古民家内に制作した作品群が恒久展示作品に選定され、その作品群がベストな状態で鑑賞できる体勢を整えるため、作品のメンテナンスを行った。また、各作品のキャプション（作品解説）設置や鑑賞者に配布するリーフレットの再作成を行い、古民家の持続的な利活用に取り組んだ。

○11月の金沢美大での「美大祭」において、飯田町婦人会の金木さんから調理法の指導を受けたすり身汁と能登の日本酒や特産品を販売して好評を博した。また、テントを祭りのキリコ風に装飾したり、祭りの映像を流したりするなど、奥能登の食や祭り文化のアピールに貢献した。

○以前から交流のあった飯田町祭礼委員会から飯田燈籠山祭りの山車の柁障子という部分への描画の依頼を受け、地元の作り手に技術を教わったうえでメンバーが地元の高校生とともに携わった。

○前回の芸術祭から交流のあった NPO 法人能登半島おらっちやの里山里海からロゴマークのデザインを依頼され採用された。

○食祭珠洲まるかじり 2019 でのイベント企画・運営を行った。

4. 活動の成果

○次回芸術祭に向け研究したいことについて話し合いやリサーチを続けた結果、テーマを「珠洲のワーク・ライフ・バランス」に設定し調査を開始することができた。2020 年に向けて今後もテーマをより具体化しながら調査を継続していく。

〈聞き取り内容〉

- | | |
|------------------------------|--|
| ・ 現在・過去の職業、仕事内容 | ・ 10 年後現在の仕事がどうなっているか |
| ・ 仕事に就いた経緯 | ・ 1 日のスケジュール（平日、休日） |
| ・ 出身地、珠洲出身者は珠洲を出た経験があるか | ・ 日課があるか |
| ・ 仕事する中でのがやが、楽しみ、困難 | ・ 1 日の中で気に入っている時間 |
| ・ 仕事を始めた当時、創業当時と変化したこと | ・ 自分で作っているものはあるか |
| ・ 仕事する中で関わる人 | ・ 現在興味があること |
| ・ 家族の仕事 | ・ 仕事、生活上でのこだわり |
| ・ 今後の目標、してみたい（してみたかった）
仕事 | ・ 珠洲、飯田で理想的な暮らし方をしている人
・ 自分にとって仕事とは |

○奥能登国際芸術祭 2017 で古民家内に制作した恒久展示作品をベストな状態で鑑賞できる体勢を整え 8 月 14 日～8 月 16 日の一般公開に解説者として協力し、3 日間で 274 名の入場者を記録した。

飯田町商店街の賑わいの創出に貢献した。

○空き家の有効的な活用の検証として、9 月 22 日に地域連携団体から情報提供があった一軒の空き家において飯田町商店街や地域住民との交流会を開催した。地域住民の皆さんの他に、珠洲へ移住した金沢美大の卒業生、珠洲へ I ターンしてきた皆さんと、地域の賑わい創出のための情報交換ができた貴重な機会となった。

5. 次年度の計画

○フィールドワークで集積したデータをアーカイブ化するマップのプロトタイプを考案する。

○1 年後の奥能登国際芸術祭 2020 で展示を可能とするレベルの、新しい作品制作に向けた活動計画を進める。

○一般社団法人石川県建築士事務所協会の監修による古民家の実測調査や、珠洲市教育委員会監修による古民家内の 8 つの蔵に残存する古文書の民俗学的調査が進められており、その情報提供を依頼し今後の活動計画に反映できるか検討する。

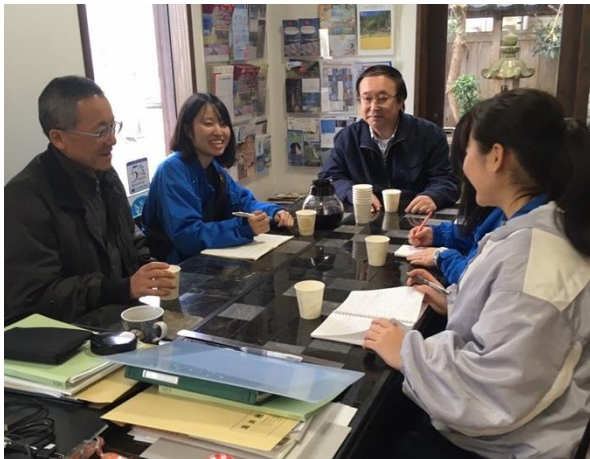
○これまで整理してきた空き家を地域住民や国際芸術祭の関係者との交流拠点として、さらに金沢美大関係者の作品制作スタジオや滞在拠点として有効活用できるか検証していく。

6. 活動に対する地域からの評価

珠洲市民からのコメント

スズプロが活動することで町そのものが元気付いていると思う。地元の人以外の方が一生懸命やってくれているので私たちももっと頑張らないといけない気持ちや、一緒にやっぺいこうという気持ちになっている。金沢と珠洲を行き来してもらうのはなかなか難しいと思うが、今度また商店街と一緒に事業をしてもらいたい。町のためにいろいろ協力いただいているので、町の人たちもできるだけ

協力はしたい。しかし実際何をしたいかわからないので、皆さんが珠洲に来ているときに話し合いを行い、一緒にやってくれればと思う。



聞き取り調査の様子



おらっちゃんの里山里海ロゴマーク発表の様子



交流会での様子



キャプション設置の様子